

文京区障害者地域自立支援協議会
令和7年度 第1回障害当事者部会 要点記録(案)

【日 時】 令和7年7月4日(金) 10時~12時

【場 所】 文京シビックセンター3階 障害者会館AB会議室

【出席者】 高山 直樹 (自立支援協議会 会長)
志村 健一 (自立支援協議会 副会長)
河野 孝志 (身体障害)
永野 栄一郎 (知的障害)
中山 雅美 (精神障害)
佐藤 留味江 (身体障害)
藤田 孝一 (精神障害)
永尾 真一 (区委員)

【欠席者】 柳澤 由美子 (精神障害)

【補助人】 関口 梓

【事務局】 高谷、荒木田、河井、谷本、林、枝松(文京区障害者基幹相談支援センター)

【開会前に事務局からの連絡】

- ・出欠確認
- ・傍聴及び会議内容の公開について確認
- ・記録のため、会議内容の録音と写真撮影についての確認
- ・資料の確認

1. 開会挨拶

- ・障害福祉課長 永尾課長 より

2. 事務局紹介及び今年度の当事者部会委員体制について(資料第0号)

- ・事務局より説明
- ・各委員の自己紹介

3. 議題

(1)部会長の互選(資料第1号)

事務局より、当事者部会における部会長の役割を説明。
⇒立候補者なし、他推薦により中山委員が部会長に決定。

(2)令和6年度全体会の振り返り(資料第3号 皆さんの意見記入シート)

事務局より、令和6年2月17日に行われた全体会の内容について説明。

◆感想・意見

<当事者委員>

- ・いろいろな部会の話が難しかった。もう少し分かりやすく説明してほしい。また発表は、映像、スライドの方がわかりやすい。河野部会長の発表(当事者部会で行った防災体験の報告)が良かった。
 - ・昨年に引き続き、民生委員の方との交流が良かった。民生委員の方などにも、防災館での体験の報告ができ、よかったです。
 - ・スライドに関しては、映像があったほうがわかりやすいが、そこに音声も加えて、何が映っているのかを、視覚障害者のためにも同時に説明してほしい。
- 情報のバリアフリー化も必要(副会長)
- ・全体会はわかりにくく戸惑いがあった。また就労についての企業の方との意見交換を希望していたと思う。

<各委員から防災についての意見>

- ・災害が起った時、水の備蓄や3階に住んでいるのでエレベーターが止まってしまった時が心配。民生委員など、助けてくれる方がいることが、自宅に届いた災害時案内(タイトル不明)に載っていた。
- ・避難所の環境など心配なことはある。実際に経験していないので、わからないことがたくさんある。
- ・精神障害者は薬が必須。薬もお薬手帳を持っていればよいと言うが、それですべてが足りるのか、詰めが甘いように思う。防災館には事業所で行ったが、実際に災害が起らないとわからないと感じた。

<自立支援協議会 会長>

- ・災害時の薬に関して、文京区にある薬剤師会に話してもらうのはどうか。薬剤師会の会長など、薬剤師に来てもらって、民生委員のように関係が出来ていくと良い。

(3)令和7年度障害者自立支援協議会について(資料第2号)

事務局より説明。

(4)令和7年度当事者部会について(資料第3号)

◆意見記入シートに準備されたことを踏まえて意見交換

<当事者委員>

- ・最近、地震が増えてきているので、やはり防災については一年で終わらせずに引き続き検討協議していく方が良いのではないか。
- ・滞在型ではないグループホームの卒後のサポートについてもっと知りたい。
- ・住み続けている地域で、地域の方とのコミュニケーションを取れるようにしていきたい。
- ・自分が入院中、障害当事者本人に伝えず、周りの支援者が、金銭について勝手に決めてしまうことがあった。自分たちもお金の事をもっときちんと知っておくべき。障害を持っているからと言って、相談もせずにすべてを決めないでほしい。また、福祉従事者もお金のことをもっと勉強しておいてほしい。
- ・B-ぐるは無料にならないのか。他区だと、コミュニティバスが無料になっているところがある。

→部会の中で何かを決めるることは難しいが、この部会の中で出た意見をB-ぐるを担当している部署に伝え

ていくことは出来る。(区委員)

- ・以前、B-ぐるに車いすが2台乗れるように要望を出したが、構造上の問題で難しいとの回答があったと記憶している。そういう問題について、当事者部会の活動として、交通のバリアフリーに関するすることを行っても良いと思う。また、防災は引き続きやっていきたい。昨年度は発災時の体験を行ったので、今年はもう一段階上がって、避難所での生活について、その不便さや改善点など、避難生活に関する行っても良いのではと感じた。
- ・自宅の近くの避難所に行ったことがあるが、他用で行ったのみで、避難所として見ていたわけではなく、避難所自体が自宅から遠い。また道がどのような状態になっているかもわからない。そのような状態で一人で避難することは無理だと感じている。
- ・他の部会では何をやっているのか知りたい。委員のメンバーが変わったということで、今までのことを振り返る機会でも良い。また民生委員との交流(前回は心のバリアフリーの読み合わせ)をこれからも続けていきたい。

<自立支援協議会 会長>

- ・災害時の避難所について、水の問題もあるが、トイレの問題が一番だと考えている。

東洋大学では、高台にあることもあり、文京区と提携していて、避難所になる可能性がある。教室もたくさんあり、トイレもバリアフリーになっている。また東洋大のSDGsアンバサダーの学生チームが、防災の準備のため、大学内で一泊したり、防災用の食事を食べてみたりと訓練をしている。そういう学生チームと話す機会を持つなどして、日常的なつながりを作り、必要な設備などに関する教えて頂ければ、大学が安心できる場所に近づいていくことができると思う。

<結論:今年度の当事者部会の活動について>

- ・昨年度同様に部会以外の日に、福祉避難所になる施設の見学や、薬剤師を呼んで、不安な点を話していく会を持つこと、役所の中の防災に関連した部署と連携等含めて考えて行くことなど、いただいた意見の実行方法の検討を事務局に一任。部会員にも適宜電話で確認するなどして決めていくこととする。
- ・他の専門部会との協働については、他の専門部会を見学することも可能であり、それぞれの専門部会の日程を、事務局から当事者部会のメンバーに伝えて、都合の合う方は自由に参加していただくこととする。

<総括:自立支援協議会 会長>

- ・大切なことは、日ごろから文京区に暮らしている皆さんの中で、生きづらさ、生活のしづらさというのを、どんどん出していただき、制度や文京区の政策に繋がっていくこと、いろいろなネットワークを作っていくこと。それが相談地域生活支援専門部会や就労支援専門部会、権利擁護専門部会、子ども支援専門部会などとの連携につながっていくのではないかと思う。当事者部会は自立支援協議会のへその部分なので、ぜひ皆さんの声や提案を聞かせていただきたい。

また部会の合間に、東洋大学の学生たちともいろいろな連携をとっていただけたらと願っている。

<その他>

- ・他の部会の日程について案内（後日改めて各委員の方に案内を行う）
就労支援専門部会 7月7日(月)区民センター3A 14時より
相談・地域生活支援専門部会 7月14日(月) 14時より
権利擁護専門部会 7月23日(水) 13時半より
子ども支援専門部会(支援者の研修会) 8月5日(火)

<自立支援協議会 会長>

- ・障害当事者部会の会長・副会長の2人の内、副会長が就労支援専門部会と相談・地域生活支援専門部会を、会長が子ども支援専門部会と権利擁護専門部会をそれぞれ担当しているため、各部会について我々から委員の皆様へ伝えることができる。

<障害福祉課より>

- ・文京区の手話言語条例と障害者の情報の取得・利用意思疎通に関する促進の条例に関するリーフレットを席上配布させていただいた。障害のあるなしに関わらず、コミュニケーションで繋がれる文京区を目指して作ったもので、Unicodeも記載しているので、視覚障害者の方もぜひご活用いただきたい。

<次回日程>

次回は9月頃を予定。